



No.001

Smiling

一般社団法人

Kids & Smile 広報紙

カンボジアとアフリカの子どもたちと共に

2019

12月号

心の畑にスマイルの種を蒔く

ルイス・カンガス s.j.

子ども (Kids) は美しい言葉です。それに笑顔 (Smile) をつけると最高です。それは天使となります。子どもの笑顔について私はいっぱい美しい思い出を持っています。

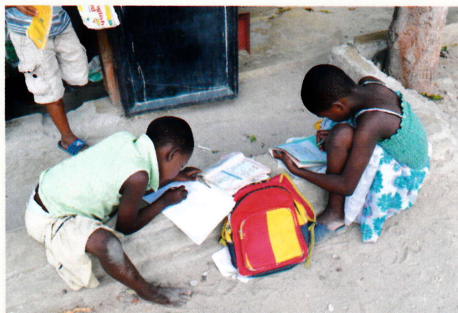


カンボジアのアルベという障害者の子どもの施設で、地雷で足を無くした6歳の子どもが車椅子に座っていました。その車椅子を押すのは目の見えない子ども

です。その二人の子どもたちは楽しそうに笑いながら、ものすごいスピードで車椅子を押して走っていました。車椅子に座っている子どもが、「右」、「左」、「曲がって!」と叫び、押す子どもはエンジンとなっているのです。この出来事は、もう十数年前の事ですが、その美しい二人の子どもの光景を忘れることができません。また、アフリカのシスターの学校で、ある子どもが学校の制服を初めて着た時のその表情を今でもはっきりと思い出します。それは、喜びとプライドを顔いっぱいに表した笑顔でした。「私はもうこの学校の一員です。どんなおもちより、どんなごちそうより、この学校の制服を着ることに喜びとプライドを感じます」と笑顔は語っていました。

2016年にタンザニアに行きました。シスターの修道院の門の道端に、幾人かの小学校低学年の男女の子どもたちが、毎

日朝から集まり、路上のセメントの上に座り、本を読んだり、それをノートに写したりしていました。暗くなるまで、夢中で勉強を続けていました。日が暮れると子どもたちはどこかに去っていきます。この子どもの中には、帰



る家がない他のストリートチルドレンと共に夜を過ごした子どももいるかもしれません。

しかし、翌朝必ず来て道の横で勉強を続けていました。そして



私たちに向ける顔には、勉強をしているという誇らしげな笑顔が見られます。私たちは、別れの日に、彼らにたくさんのノート、鉛筆、消しゴムなどをプレゼントして別れました。他にもこのような思い出もあります。ブノンペンのごみの山でお金になる

プラスチックゴミなどを拾い集め、それを売り毎日の生活を支えている人々がいます。そのような大人たちに混じって男女の子どもが一生懸命に売れるゴミを拾い集めています。私は何気なく振り向いた女の子を写真に撮りました。そして、その子にそれを見せました。彼女はとてもはにかみながら喜びに満ちた素晴らしい笑顔を私に見せてくれました。この時、私は、この子どもが今日一日の中で笑顔を見せるのは、この瞬間だけであろうと思いました。

子どもの笑顔は美しいです。アフリカとカンボジアの子どもたちは、勉強をする時、食べる時、満たされた笑顔になります。きっとこの子どもたちにとって勉強は最高の喜びでしょう。勉強をすれば、将来仕事につき、今より幸せに生きることができるはずです。もちろん、勉強とは読み書きだけではなく、約束を守ったり、自分の行いに責任を持ったり、周りの人々を大切にしたりという道徳的なことを身につけることも含まれています。今の子どもたちは、将来自分の家庭を築き養うために施しを受けることはありがたいことでしょう。しかし、それ以上に自分の力(仕事)で家庭を養っていくことの方がなお嬉しいはずです。つまり、一匹の魚を貰うことより、一匹の魚を獲る方法を教えて貰うほうがなお嬉しいことです。

新しい会である Kids&Smile は、“子どもにとって最高に喜ばしいこと”を探して、自由と幸せな人物を育てたいと思っています。スタッフは支援先の国に出向き、恩人の皆様のお金为正しく生かされていることを確認し、さらに新しいニーズを現地の方々と話し合い、恩人の皆様に実情を知らせる橋渡しの役割を担っています。

敬愛なる恩人の皆様は、“スマイル”の種をアフリカとカンボジアの子どもたちの心の畑に蒔いています。あなたがたの上にいつも注いでいるイエスの眼差しを感じて、喜んでください。

現地のニーズを知るために カンボジアを訪問

Kids & Smile スタッフ 佐藤 桃子

10月7日（月）から10日（木）まで Kids & Smile のスタッフ 5 名（内 1 名は現在ボランティア活動のため 1 年間の予定でプノンペン近郊に滞在中）は、現地の状況をより良く把握するためにアンコールワットで知られているシェムリアップ市を訪れた。

到着した 7 日の午後、シェムリアップ教会のトテット神父や教会のスタッフと約 2 時間のミーティングを行ない、初めに、昨年 10 月に Kids & Smile という新しい組織を設立したこと、組織の規模はまだ小さいものの、引き続きカンボジアを支援していきたい旨を伝えた。その後、トテット神父よりシェムリアップ 教会が管轄している 7 つの村にある幼稚園（園児総数約 350 名）と青年たちの寄宿舎などにかかる年間経費、先生の給料、教材費、制服、給食（お粥プログラム）などについて説明を受けた。そして、より良い教育環境を構築するためには先生のお給料の確保が大変重要なことや子どもたちの可能性を伸ばすためには、奨学金制度も重要であることなどをうかがった。

翌日から二つの村に案内していただいた。8 日は、車で片道 1 時間半ほどの Piak Snaeng 村の幼稚園を訪問。

9 日は、ボートで約 2 時間かけてトンレサップ湖上に浮かぶ Prek Toal 村の幼稚園を訪ねた。カンボジアでは、この時期は夏休み期間だが私たちのために子どもたちが集まってくれていた。私たちは、子どもたちの笑顔やその子どもたちの教育に力を注ぐ先生方と交流する時間を持つことができた。そして、私たちはこの子どもたちや先生方の意欲を削ぐことがあってはならないと実感した。トンレサップ湖の幼稚園では、ソーラーパネルで電力を賄うなど進んだ面を見た一方、子どもたちの給食の食器を洗うのは、その湖の清潔とは言えない茶色い濁った水であるのを見た時は複雑な気持ちになった。

シェムリアップの街は、表通りには豪華なホテル、立派なスーパーマーケットや衣料品店などが立ち並び、経済的発展を感じる一方で一歩奥へ足を踏み入れると、以前のままの貧しい生活が残っていて、貧富の差が以前にも増して拡大しているのを目の当たりにした。

Kids & Smile は、今はまだ小さな力かもしれませんが、細く長く支援を続けることの大切さを強く感じた訪問であった。



カンボジアで日本語を教えるー 現地で考えたこと

Kids & Smile スタッフ 山下 純乃

7年前、高校1年生の時「バットンバン友の会」が主催するツアーに参加しました。その時、孤児院や貧困家庭の多い村を訪れ、カンボジアが抱えている問題に衝撃を受けたことを覚えています。

「いつか、カンボジアに住んで、カンボジアの人のために何かをしたい！」

その時から、私とカンボジアという国に、切っても切れない大きな繋がりができました。

そして、就職活動にも身が入らず、一念発起。4月から12月までの8ヶ月間、カンボジアで教育支援のインターンをはじめました。

私の所属している団体は「一般社団法人 Cycle beyond the Borders」(以下CBB)という国際協力NGOです。CBBでは①すべての子どもたちに教育へのフリーなアクセスを、②国を担う人材の輩出という2つのビジョンを持ち、カンボジアでの活動を続けています。

現在、私が行っている活動は、大きく2つに分かれています。1つが、フリースクール(無料の語学塾)での日本語教師です。CBBスクールはカンボジアの地方部にあります。生徒は午前中、公立学校に通い、午後日本語や英語を学ぶためにスクールに来ます。外国語を学び、子どもたちの将来の職業の選択肢の幅を広げ、仕事に就き、将来的に貧困から脱することができ。そんな未来を目指し、日々楽しく日本語を教えています。

2つ目が、退学した中高生を対象にした復学支援・大学進学支援プロジェクト(以下住み込みプロジェクト)です。住み込みプロジェクトは、家庭の貧困や労働力として稼がないといけないからなど、何かしらの理由で退学をした中高生をCBBが受け入れ、日本人インターン生と共に生活しながら学校に復学をするというものです。

学校に行きたくてもいけない子どもたちが、出会うことのなかった日本人と出会って、一緒に住んで、日本語により多くの時間触れることができる環境で言語を学んで、学校にもう一度通うことができ、大学や日本語学校にも進学して、学んだことが将来的に仕事につながって、その子自身も家族も貧困から抜け出せるかもしれない。それが実現したらすごく素敵だとは思いませんか？

今、私はカンボジアでたくさんの日本人インターン生と4人のカンボジア人と生活をしています。カンボジア人4人のうち3人は、この住み込みプロジェクトで来た15歳から17歳の子どもたちです。みんな田舎の村出身で、そのうちの15歳



の少年は小学校で退学をしました。5人兄弟みんな、貧困のため学校を辞め、兄弟みんな母国語であるクメール語の読み書きができません。ですが、今、彼は私たちと一緒に住み始め、日本語とクメール語の勉強を始めました。彼がクメール語と日本語を習得したら彼の人生は大きく変わるのではないかと思っています。

これから高校を卒業するまで長い道のりが待っています。彼らの人生がどのようなになるのか。毎日、一生懸命勉強している彼らに期待する気持ちでいっぱいです。

さて、私のカンボジアでの任期もあとわずかとなりました。そろそろ、帰国後のことを決めなければいけません。ここでの生活を通して、国が成長していく中での教育の重要さを考えることができました。農村部で生活することで、旅行では見えてこなかったカンボジアのリアルな面や、負の部分に直面しました。ですが、それ以上にカンボジアの人々の温かさや心の豊かさに触れ、物価の安さ、生活のしやすさも知ることができました。

正直言うと、期限なんか決めずにずっとここにいたい。帰国せずに、スクールの生徒や住み込みの子どもたちの将来を見届けたい。けれど、そんな日本人による支援もいつかは終息に向かわないといけない日が来なければなりません。その代わりに、ここで学んだ生徒や、住み込みの子どもたちが今度は先生として、このスクールで教える日が来たら……。その時は本当にCBBが目指す「カンボジア人自身の手による教育支援」が行われる時です。

その日を思い描きながら、今回のプロジェクトをずっと続けていけるよう、残りの期間を過ごしていきます。来年1月、「8ヶ月、やり遂げました!!」と、カンガス神父様の待つ山口教会に胸張って帰ってこれますように。これからも応援よろしくお願いします。

カンボジアで頑張っている彩乃さん、日本に戻ってきたら Kids & Smile のスタッフとして、またよろしくお願いしますね！

子どもたちが楽しいと 感じる気持ちを大切にしながら

JLMM 浅野 美幸

カンボジアの首都プノンペン急速に経済発展していますが、貧富の格差が広がっています。プノンペン市郊外ステンミエンチャイ地区に住み、ゴミ集積場で働いている人たちは、貧困の悪循環に陥り、なかなか貧困から抜け出すことができないでいます。JLMM は 1998 年より小学校に入学しても途中で止めてしまう子どもが多い地域で、就学前の子どもたちへの識字教育や情操教育を行う「子どもの家」を午前中実施しています。また「その日暮らし」の人たちが、家庭の生活環境や生活習慣を改善して健康的な生活が送れるように、母親の教育に力を入れ、地域全体の生活向上を目指して活動をしてきました。

子どもを預けて安心して働きたい母親たちのリクエストに答え、2 歳児 15 人、3 歳児 60 人を朝 6 時 30 分から 18 時 30 分まで預かっています。子どもたちは、午前中は「子どもの家」で学び、給食後、昼寝、水浴び、給食、授業、遊び、おやつ、遊びをして 1 日を過ごし、石鹸を使った手洗いや歯磨など衛生的な生活習慣を身につけています。授業では、基本的なクメール語の読み、歌、絵本の読み聞かせや塗り絵、工作、パズルなど遊びながら学べるように心がけています。また新たに建設した運動場で遊具を使った遊びの時間や屋上でのビニールプールを使った水遊びの時間を授業のカリキュラムの中に取り入れ、子どもたちが心身共に健やかに育っていけるように努めています。

ここに通ってくる子どもたちの何人かの家庭環境はとても複雑です。父親がいなくなってしまうたり、

妹が売られてしまったり、酒を飲んで暴力をふるう父親と暮らしている子どももいます。ここで少しでも楽しい思いができるように、子どもたちが楽しいと感じる気持ちを大切にしながら、先生 2 名、アシスタント 6 名が交代で授業を行っています。Kids & Smile の皆さまから頂いた支援金で、取り敢えず先生とアシスタント 4 名までのお給料を支払うことができ、運動場での遊具や、また教室の家具を購入することもでき、子どもたちが楽しく安全に学べる環境を提供することができました。本当に有難うございました。

栄養失調や発育不全の子どもたちの栄養改善を行うために、毎日「子どもの家」に学びにきた子どもたち全員に手作りの豆乳と栄養価の高い給食を提供しています。子どもたちの栄養補給として豆乳を手作りしていますが、豆乳を絞った後の絞りかすであるおからを子どもたちの給食やおやつに活用しています。その中の一つ、子どもたちが大好きなレンジおからケーキ（ココア味）、おから専門家の高橋典子さんから教えて頂いたレシピをご紹介します。（6 ページ参照）

粉を使わない簡単おからスポンジケーキ。おからは食物繊維とたんぱく質を多く含み栄養価が高いので、みなさんもトライしてみてください。経済的な理由から充分なたんぱく質を摂取できない母親たちに、これからおから料理教室を実施していく予定です。これからもご支援、応援の程、どうか宜しくお願いいたします。



平和から遠くにある コンゴの現状

聖マリア修道女会 Sr. バジリアネ

コンゴ民主共和国における緊急事態の状況

コンゴ民主共和国（RDC）では、北キブ州の不安定な状況により、多くの人びとが家を捨てることを余儀なくされています。避難した彼らは絶望的な中にいます。治安なども不安定なため、彼らにアクセスすることは非常に難しいのです。しばしば避難民たちは、誘拐と殺人、攻撃の標的となり、その暴力によって心に痛み（トラウマ）を負っています。

避難民たちは、自分の土地を耕したり、自分たちの食糧を蓄えたりすることすらできません。彼らは唯一の食糧必需品を得る手段を失い、必然的にそれが栄養失調に繋がります。国内で登録されている性暴力の事件もまた最大数になり、強姦に対する訴えの数が増加しています。

その間に、エボラの流行はまだ収まっています。8月に国の北東部で事例（症例）が見つかりました。そして、ルワンダの国境で 200 万人の住民がいる州都である Goma（ゴマ）では、保健部署が増えました。不確実で神経質な状態が住民の間に広がりながらも、地方政治の高い水準と国際社会において流行に対処するための方策が議論されています。このことは、世界保健機関により国際的関心の緊急事態と宣言されました。RDC 政府、世界保健機関、国境なき医師団そしてその他の国際機関によって形成された対応チーム内で、流行に立ち向かうために使われるワクチンについて激しい議論が呼び起されています。コンゴ人の Muyembe 博士は、流行に対する対策の新しいコーディネータであり、また、ジョンソン (Johnson) 社が開発した新しいワクチンを使用して、副作用を抑えています。

ベニ (Beni) とブテンボ (Butembo) における猜疑心

いまだで流行が集中していた地域であり紛争の影響を強く受けているベニとブテンボの町では、コンゴ政府に対する信頼がほとんどないために、人口の大部分が病気を信じていません（エボラの症状は地域固有のマラリアと同じ）。彼らはそのことを地域の安定を失わせる作戦だと考えています。人びとは、ワクチンはまだライセンスをもっていないということ、長期的な副作用はまだ不明であることをそれ相当に知らなければなりません。そして、地域の人たちは、そのワクチンは病気の治療ではなく、予防対策であることを知らなければなりません。

また、ワクチンは、効果が表れ始めると体に不快感が起きることも知らなければなりません。一方、注射を受けたのに死んだ人がいるので、ワクチンはごまかしだと思う人がいます。しかし、既にエボラに感染した人には、ワクチンは効かないということを知らなければなりません。一度感染すると効き目があるワクチンはないのです。

私は、これらの心配な状況の解決策を見つける希望を失いません。

人々が思っている一番大切な事は、安らぎと尊厳のある人生を取り戻すのに役立つ平和です。聖マリア会が担うミッションは、健康と教育の重要な仕事がある場所で、いろいろな方法を用い人々のために平和を取り戻すことです。

「エボラは非常によく組織化された効率的なサービスによって沈静化に向かいつつあります。

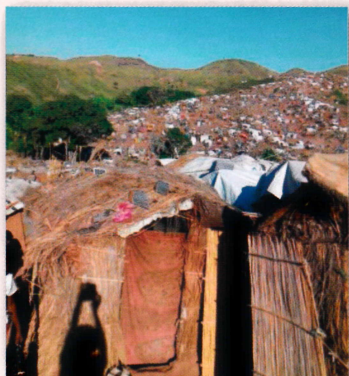
そして、私たち（聖マリア修道女会）のキョンドの病院は、エボラが疑われる症例に対して最初のケアをする病院の一つとなっています」（11月20日着信 追記）

Roma, el 29 de Agosto de 2019

Basiliane Kalemba



逃れてきた避難民



遠くの山に無数の難民キャンプ



避難民



病院

かんたん！ おいしい！ ヘルシー！ カンボジアの子どもたちもだいすき！

「おからスポンジケーキ」の作り方

材料(出来上がりで10cm×12cm×4cm程度)

おからパウダー30g ココアパウダー(無糖)10g 砂糖30g プレーンヨーグルト80g
ベーキングパウダー10g サラダ油大さじ1 卵2個 オレンジピール少々

作り方

1. おからパウダー、ココアパウダー、砂糖をボウルに入れて合わせる
2. 卵を溶きほぐし、1.のボウルに加え、さらにヨーグルト、サラダ油を加えて混ぜ、ベーキングパウダーを加えて混ぜる
※オレンジピール少々を細かく刻んで生地に加えると、さらに美味しくなります
3. 800ml 程度の容器の耐熱容器にオーブンペーパーを敷き、生地を流し込む
4. 蓋をせずに電子レンジ(500W)で4分くらい加熱し、竹串をさして生地がつくようなら、さらに30～60秒ほど加熱する
5. 粗熱がとれたらオーブンペーパーごと取り出し、食べやすい大きさに切り分ける

出典：日経ホームマガジン「おからパウダー」(アレンジ)

オルガンコンサート開催のお知らせ

【微笑みとやすらぎのコンサート】2020年3月6日(金)

会場：霊南坂教会 19:00 開演



塚谷 水無子
オルガニスト



プレリュードとフーガ 変ホ長調 BWV552
オルゲルビュヒラインより コラール
「おお、罪なき神の子羊よ」 BWV618
「人よ 汝の罪の多いなるを嘆け」 BWV622
トッカータとフーガ ニ短調 BWV565
シャコンヌ(塚谷水無子編) BWV1004
他

東京藝大楽理科卒業後オランダへ。パイプオルガン・作曲・即興演奏をヨス・ファン・デア・コーイに、ピアノと室内楽をウィム・レーシンクに、チェンバロをロベール・コーネンに師事。アムステルダム音楽院、デンハーグ王立音楽院修士課程を首席で卒業。17年にわたりロイヤルコンサートヘボウ、オランダ国立歌劇場はじめヨーロッパ各地のコンサートに出演、委嘱作品の世界初演も数多く手がける。

私たちの団体の活動は、皆さまからの会費およびご寄付によって運営されています。私たちの団体の目的に賛同し一緒にアフリカ・カンボジアの未来を築いていく賛助会員を募集しています。

その他、随時のご寄付については、何時でもお幾らでも感謝のうちに受けたいしております。

支援してくださる全ての方に、年2回発行の会報誌およびイベントのご案内などをお送りいたします。

会費

賛助会員 1口 2,000円

団体会員 1口 10,000円

ご寄付の方法

【郵便振込の場合】

郵便振替口座 00110-1-265940

加入者名：Kids & Smile

【銀行振込の場合】

みずほ銀行麹町支店

普通預金口座 店番号 021 口座番号 1520434



一般社団法人

Kids & Smile

〒105-0004 東京都港区新橋 4丁目 5-15
新橋新和ビル 8階 TEL.03-4405-4067

<http://www.kids-and-smile.or.jp/>

E-mail: info@kids-and-smile.or.jp

法人設立年月日 2018年10月12日